４年生のみなさんへ　　伊勢原市立子ども科学館

クルリンと ほしぞらさんぽ　４月号

４年生へ進級おめでとう

小学校の上学年になりました。ますます勉強に励むのは当然として、お家の中で役割分担をしたり、身の回りの自然に目を向けて自然環境を感じたり、さまざまな体験を積み重ねていきましょう。読書やデジタル知識だけではダメですよ。

ほしぞらさんぽをはじめましょう

自然を身近に感じる体験を積み重ねることであなた方の生き方に楽しみが増えることでしょう。だから天体観測とか星の観察とか難しい話ではなくて、ほしぞらさんぽをして星空に親しむ習慣を作って欲しいなと思っています。ほしぞらさんぽのコツを１年間かけて順次お教えしていきます。

見つけよう　冬と春のふたつの大三角

まず西に沈もうとしている「冬の大三角」を見つけましょう。オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンです。

星の名前を覚える時には、星座の名前とくっつけて覚えましょうね。おおいぬ座のシリウスは全天で一番明るい星（惑星などをのぞいて）で、距離は8.7光年、地球にぐんと近い星です。オリオン座のベテルギウスはもうすぐ超新星爆発を起こして死んでしまうと言われている赤色巨星で１等星ですが、今は西の空の低いところにいてさほど明るく見えていません。この星は640光年こうねんもはなれている星です。光年って何？　図書館で星の本を借りてきて調べてみましょう。

次に「春の大三角」を探す前に、北を向いて北斗七星を探しましょう。北斗七星が星座名でないことは知っていますね。おおぐま座の一部分で、これをひしゃくの形と言いますよ。このひしゃくの柄え=持ち手のカーブをそのまま伸ばしていくと明るい星が一つ見つかります。まだ低い空にあるので注意して探してね。それがうしかい座のアルクトゥルス、距離38光年にある１等星で赤っぽく見えていると思います。

北斗七星のひしゃくの柄えからアルクトゥルスへの大きな曲線をさらに伸ばした先にあるのがおとめ座のスピカ、これは260光年も遠くにある１等星です。

二つの星が見つかったら春の大三角を探します。うしかい座のアルクトゥルスと乙女座のスピカと組み合わせて大きな三角になる星は、かなり高いところに二つありますが、正三角形に近い方として低い暗い星を選びましょう。これはしし座のデネボラで距離36光年、２等星でちょっと暗くて探しにくいかもしれません。南の高い空にある１等星はしし座のレグルスで距離は78光年です。１等星の中では暗い方ですが、４月ごろは空高くにあるので目立っていますね。

ほしぞらさんぽを始めるには

まず知らなければならないことが３つあります。

その１　星空を見るタイミング

星も月も、晴れていればいつだって見られると思っていませんか。とんでもない、昔は見えたけれど今の都市部では、星はなかなか見られないものなんですよ。町の明かりで夜空までが明るい伊勢原市内では、星空を楽しく見るのは難しくなりました。

まず月がある晩には星の光が薄くなってしまうのでほしぞらさんぽはできません。満月だったら星が見えないのは当たり前、ですね。みなさんがほしぞらさんぽする時刻に月がないのは、１ヶ月のうちの半分ぐらいです。

今年の４月中の月の変化は、4/2 下弦の月、4/9 新月、4/16 上弦の月、4/24 満月となっています。新月は一晩中月が見えない夜ですが、その他の夜でも月明かりがない時間帯はあります。

月明かりを考えると、ほしぞらさんぽできるのは今月は１日から13、14日までぐらいでしょう。

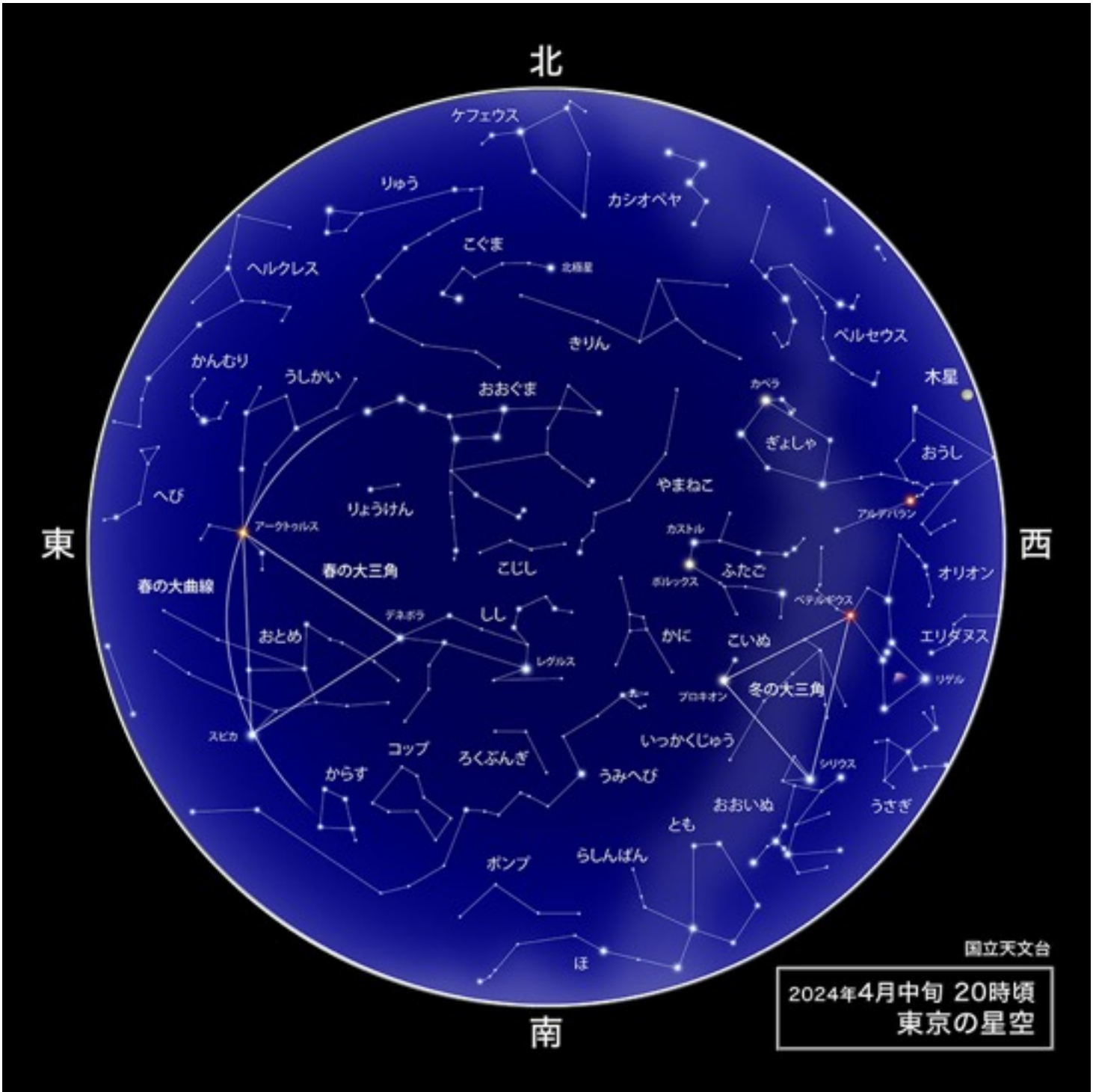
これはアプリ「天体観察可能時間」で調べることができます。

その２　場所選び

大都市では、ビルでさえぎられ見上げる空が四角になって、なかなか星や星座が見えません。できるだけじゃま物がない場所を探さないと、ほしぞらさんぽができませんね。

また場所によって夜空の明るさ暗さがかなり違います。たとえば伊勢原の駅前近くでは１等星がやっと見えるぐらい夜空は明るいけれど、日向地区の奥や大田地区の田んぼの真ん中に行くと３等星も見えています。その場所の地面に段差はないか、車が来ないかなどなど、夜の安全を見きわめておくことも忘れずに。

その３　星図を手に持って　赤いライトで

何も知らずに夜空を見上げていても、すぐにあきてしまうでしょう。でも星の名前や星座のことや、それぞれがどんな星なのかを知ってくると、ほしぞらさんぽが好きになるし、楽しくなるし、もう一度見たい、と思うようになりますね。星座早見盤とは別に「星図星空の地図」が必要です。夜の野外では、赤い光のライトがないと星図は役に立ちません。

自分に分かりやすい「星図」を見つけるのが大事です。伊勢原市立図書館２階の児童書の棚には、星空関係の本がいっぱい並んでいます。まずは春の星座のことが書いてある本を借りてきましょう。